

潮音寺だより

第 287 号

平成 19 年 9 月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

〈ホームページ〉 <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



盆画：小島とよ子

無^む畏^い施^せ

無畏^{むゐ}というは

恐怖^{こゝろおそ}のないこと
おそれないこと

安穩^{あんゑん}で
怖畏^{おそ}のない心

そしつ
おそれず
やみごころ
強い心

無畏^{むゐ}施^せとは

悩める者の
不安や恐怖を
取り除き

自信と
勇気^{ゆうき}を与える
菩薩^{ぼさつ}行

『シンガーラへの教え』①

ブッダローサという、五世紀頃の大仏教文字がおられます。意識して「仏音」「賞嘆」なども呼ばれます。中インド、マガダ国のブッダガヤー付近の人で、バラモン出身ですが、仏教に帰依し、広く経典に精通し、弁舌に巧みで、伝道に努め、四三〇年頃スリランカ(セイロン)に渡り、全三蔵(仏教聖典)のほとんどの、パーリ語の注釈書を作るという偉業を成し遂げた方でありました。スリランカ(セイロン)では、彼の学徳をたたえて、弥勒菩薩の再来とあがめられるそうです。

そのブッダローサが、『シンガーラへの教え』という経典の注釈に「家長がなすねはならぬ行為であって、しかもこの経典のうちに説かれていないものは、何も無い。この経典は家長の戒律と言われる。それ故にこの経典を聞いて、教えられたとおりに実行するならば、繁采のみが期待せられ、哀浪は

ありえない。(中村元訳)と記されています。

事実、現在においても、南方仏教の方々は、この『シンガーラへの教え』を、世俗人のための実生活の指針を述べたものとして、とても重んじられているといわれています。とついでに、現代にも通じる仏教道徳として、我々大乘仏教者も、この経典に学ぶべきことが多いのではないかと思われまします。そこで、その一部(中村元訳)を紹介します。

このようにわたくしは聞いた。

あるとき世尊は王舎城のカンダリ竹林に住んでおられた。そのとき資産者の子シンガーラは早く起床し、王舎城を出て「郊外に至り、沐浴して」衣を淨め、髪を淨めて、合掌し、東方・南方・西方・北方・下方・上方の各方向を礼拝した。

そのとき世尊は早朝に內衣をつけ、

鉢と衣をとり、行乞のため王舎城に入られた。

そこで世尊は資産者の子シンガーラが早く起床し、王舎城を出て、「郊外に至り、沐浴して」衣を淨め、髪を淨めて、合掌し、東方・南方・西方・北方・下方・上方の各方向を礼拝しているのを見られた。そうして資産者の子シンガーラを見て、このように問われた。

「資産者の子よ。汝が早く起床し、王舎城を出て、「郊外に至り、沐浴して」衣を淨め、髪を淨めて、合掌し、東方・西方・北方・下方・上方のそれぞれの方角を礼拝するのは何故であるか？」

「尊者よ、父がなくなるときわたしに遺言しました。『親愛なる者よ、お前にもももるの方角を拝すべきである』と。『このようにわたくしは父の遺言を尊び、敬い、重んじ、奉じて、早く起床して、王舎城を出て、「郊外に至り、沐浴して」衣を淨め、髪を

淨めて、合掌し、東方・南方・西方・北方・下方・上方のそれぞれの方向を礼拝するのだよ。」

「資産者の子よ。立派な律において、は、六つの方向をこのようになしかたで礼拝してはならぬ。」

「わい、ジャンガールはなすいたし、それで、立派な人の律においては、どのようになしかたで六つの方向を礼拝すべきであるか、そのきまりをわたしに、よくお教えくださいませ。」

「では、資産者の子よ。聞け。よく注意せよ。わたしは話してあげよう。」「尊者よ。かしこまりました」と言いつて、資産者のジャンガールは世尊に答えた。そこで世尊は次のように説かれた。 (中略)

資産者の子よ、立派な弟子は六つの方向をこのように礼拝するのだよ。六つの方向とは次のものであると知るべきである。

東方は父母とあるところへ、

南方はさらさらの師であると知るべきである。西方は妻であると知るべきである。北方は友人・朋輩であると知るべきである。下方は奴婢・傭人であると知るべきである。上方は修行者・バラモンたちであると知るべきである。

更に次の五つのしかたによつて、子は東方に相当する父母に対して奉仕すべきである。一「一」われは両親に養われたから、かれらを養おう。二「二」われらのために為すべきことをしよう。三「三」家系を存続しよう。四「四」財産相続をしよう。五「五」してまた「五」祖靈に対して適当な時々、供物を捧げよう」と。

更に「これら五つのしかたによつて、子は東方に相当する父母に対して奉仕すべきである。」

また父母は次の五つのしかたで子を愛するのだよ。すなわち「一」悪から遠ざけ、「二」善に入らしめ、「三」技能を習せよ、「四」適当な妻を迎え、「五」適当な時期に相続せよ。」

能を習せよ、「四」適当な妻を迎え、「五」適当な時期に相続せよ。」
更に子は、「このようになすいたかたによつて、東方に相当する父母に奉仕し、また父母はこれら五つのしかたによつて子を愛するのである。このようにしたならば、かれの東方は護り、安全であり、心配がない。」

(以下は次回)

この経典は、物語として読んだ方が面白いのです。俗な信仰をしていゝジャンガールに、それを頭から否定するのはななく、上手により深い信仰に教え導いていくブッダ釈尊の姿が、彷彿としてまいります。

今回は、東方だけの紹介ですが、親からの財産を守り、養われた親や先祖には奉仕し大事にするのと、子に対しては愛情をもって、教育をし、結婚をさせ、さらには相続を引き継ぐまでが親の責任であると説かれていたのだと思ひます。いかがでありましょう。

甘露 かんろ

今でこそ少なくなったが、かつての日本人はおいしい飲み物を飲んだときは、「この「甘露」を形容詞」というよりは感動詞」として用いたものだ。要するに「うまい！」である。

梵語ではアムリタ。「天酒」とも「不死」とも訳される。要するに不老不死の霊液。これが中国に伝わり甘露と訳された。

甘露は、世界の中央にそびえる須弥山の頂上から降ってくる甘味な霊液で、これを飲めば苦悩が去り、長寿を得、死者をも復活させることができると言われていた。それがやがて、仏法のたとえになり、涅槃の世界は「甘露城」、涅槃の入り口は「甘露門」と呼ばれるようになる。涅槃の世界は甘露

を飲んだときと同じように心身の平安を得られる、という意味のためだろう。

日本では一般に、甘く味つけした食べ物指すようになり、小魚を甘く煮た「甘露煮」、砂糖水を煮て冷ました「甘露水」というぐあい用いられるようになった。現在でも「カンロあめ」という菓子名が健在。

『仏教のことば』早わかり事典

雑記

▼稚児募集中



重ねての御願いです。来る10月28日(日)の位牌堂落慶法要での「お稚児」を募集中です。

お知り合いの方々にも、お誘いいただけますと有難いです。その節は申込み用紙を、必要数ご請求

下さい。お願い申し上げます。

▼最高気温

八月一六日、岐阜県多治見市、埼玉県熊谷市で、四〇・九度を記録し、七四年ぶりに、日本での最高気温が更新されました。これまでは山形市の四〇・八度だったとか。

名古屋でも大変な暑さで、当方の飼い犬は暑さに弱く、グロッキー状態です。一方、猫の方はというと、暑い部屋でも、涼しい顔で寝ております。犬と猫では気温の感じ方が、ずいぶん違うようです。

▼秋彼岸施餓鬼会

◎期日 9月23日(日)

◎時間 1時30分～2時30分

お揃いで、ご参り下さい。

◆宿題とセックツクツクヤ

法師蟬 沐魚